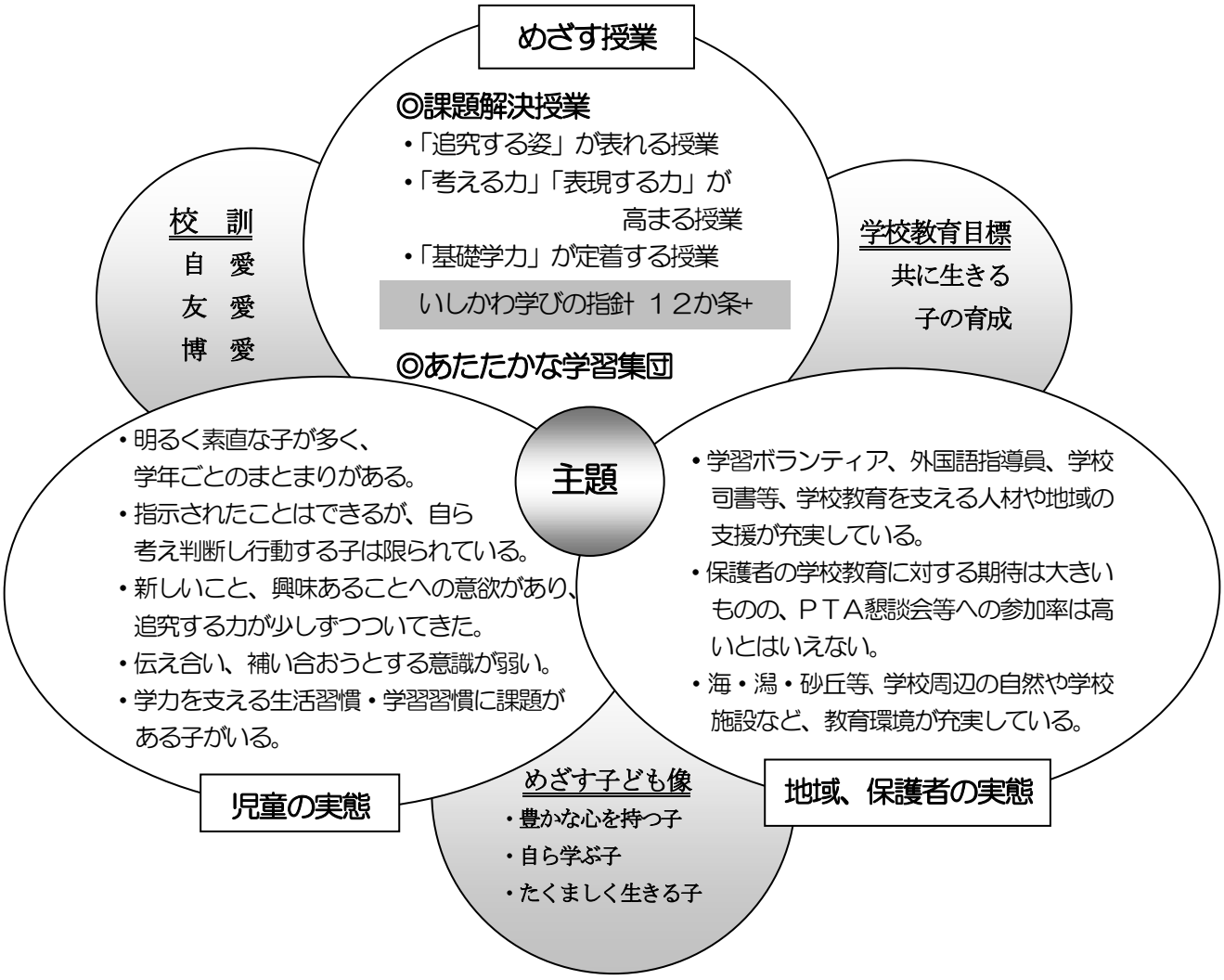
内灘町立清湖小学校

1. 研究主題

自ら考え、追究する子をめざして

～「わかった、できた」と実感できる授業づくり～

2. 研究主題・副題設定の理由



本校では、平成１９年度から、研究主題を「自ら考え、追究する子をめざして」とし、追究する姿がみえる授業づくりを目指し、実践を積み重ねてきた。

本校が考える**「自ら考え、追究する子」**とは、

課題を見出し、個や集団の中で、既習事項やこれまでの経験を総動員して課題の解決や達成に向けて考え、それを表現し合うことで学びを深めるとともに、さらに新たな課題を生み出し追究し続ける姿

である。このような学びへの姿勢・能力を、これからの時代を生きる子どもたちに、ぜひとも獲得させたい。

昨年度から、副題を【「わかった、できた」と実感できる授業づくり】として、授業実践を積み重ねてきた。「問題意識が高まる課題づくり」「根拠をもとに筋道を立てて考えを表現させる指導の工夫」をすることで、児童一人一人の「わかった、できた」を実感させ、本校が目指す児童の姿にせまろうと実践を行ってきた。その成果として、次の点が挙げられる。

（１）問題意識が高まる課題づくり

単元の導入に、どんな力を付ける学習か、そのためにどんな学習をしていく必要があるのか、教師と児童で共有することで問題意識を高め、児童は見通しをもって学習を進めることができた。

〇実物、本物に触れされることで、児童の「やってみたい」「考えたい」の思いを引き出すことができた。

〇学習を進めていく中で、既習との違いを明らかにすることでも、児童の問題意識を高めることができた。既習の掲示物を活用することで、全員で学習課題をつくることもできた。

（２）根拠をもとに筋道を立てて考えを表現させる指導の工夫

教師自身が単元、本時で「何を根拠として、どのように表現させるのか」を考えて授業の臨むことで、児童を評価し、そして不足していることは問い返すことができた。

〇「どうして」「どこから」「くわしく教えて」などの問い返すことで、児童に考えだけでなく、根拠や理由も話す意識をもたせることができた。

〇児童の発言を「話し方名人」の掲示を使いながら位置付けたり、できた児童を価値付けたりすることで、他の児童も意識するようになった。

「付けたい力」を明確にすることで、その力が一人一人の児童に付いたのかを評価することができる。この評価こそが、「わかった、できた」を実感する授業となっているかを見取るために大切である。しかし、昨年度は、この見取りが十分できていなかった。そのため、一人一人の児童が「わかった、できた」を実感するまでには至らないこともあった。

そこで、今年度は、これまでの共通実践を通して積み上げてきた成果をもとに、「付けたい力」を明確にして、単元で、本時で、児童の「わかった、できた」を評価して、実践を積み重ね、主題に迫っていきたい。

3. 研究の仮説

授業者が、児童の問題意識が高まる課題の設定や発問を行うことで、児童の追究意欲が高まり、考えや根拠、理由が明確になる話し合いとなり、そこで学んだことを個で活用することで、児童が「わかった、できた」と実感できるだろう。このように実感する児童は、課題の解決や達成に向けて意欲的に取り組み、「自ら考え、追究する力」をつけていくだろう。

4. 研究の重点と具体的な取組

「わかった、できた」と実感させるために、以下の三点について取り組んでいく。

（1）問題意識が高まる課題づくり

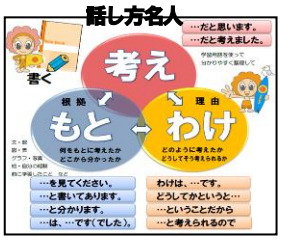
・付けたい力を明確にし、単元のゴールの姿がイメージできるようにモデルを提示する。
・言語活動や自分の考えを様々な方法で表現させる場や習得した知識を活用する場を教科の特性も生かして単元や１時間の授業の中に位置付ける。
・課題は、多様な思考ができるもの、根拠や筋道が明確に表現できるもの、思考を深めることができるようなものにする。

付けたい力を明確にし、その力を付けるための学習課題や言語活動を設定する。単元のゴールの姿がイメージできれば、単元の学習の見通しをもち、学習課題をつくることができるだろう。「どうして？」「考えてみたい！」「やってみたい！」という児童の思いを引き出すようにすれば、主体的に追究していくだろう。児童の思考の流れを大切にしながら、学習課題や言語活動を設定し、目的や相手意識を継続してもてるようにしていきたい。

（2）根拠をもとに筋道を立てて考えを表現させる指導の工夫

・児童に表出させたい「考え・根拠・理由」を授業者が明確にとらえる。
・表現をする際には、昨年度も取り組んだ「話し方名人・聞き方名人」を継続して活用していく。
　「話し方名人」…「考え・根拠・理由」を明確にさせる指導を行う。
　「聞き方名人」…自分の考えを深めるための聞き方の視点をもたせる指導を行う。

考えを書く時、伝える時には、何をもとにして考えたのか「根拠」を示し、なぜそう考えられるのか「理由」を表現させることが必要である。このことが「そうか。」「なるほど！」という納得感を生むことにつながっていく。聞き手は、表出された考えを的確にとらえ、自分の考えと比較しながら違いや共通点を見出したり、友達の考え方をもとに新たな考えを生み出したりしていくようにしたい。このような経験を積み重ねることで、「わかった、できた」と実感し、追究する力を高めていきたい。しかし、児童の発言は、根拠や理由が不明確なものが多い。そこで、何を根拠、理由として考えさせ、ねらいにせまっていくのかを授業者が明確にして授業に臨むことで、児童の発言の不足している部分を発問や問い返しによって気づかせ、表現させることができると考える。

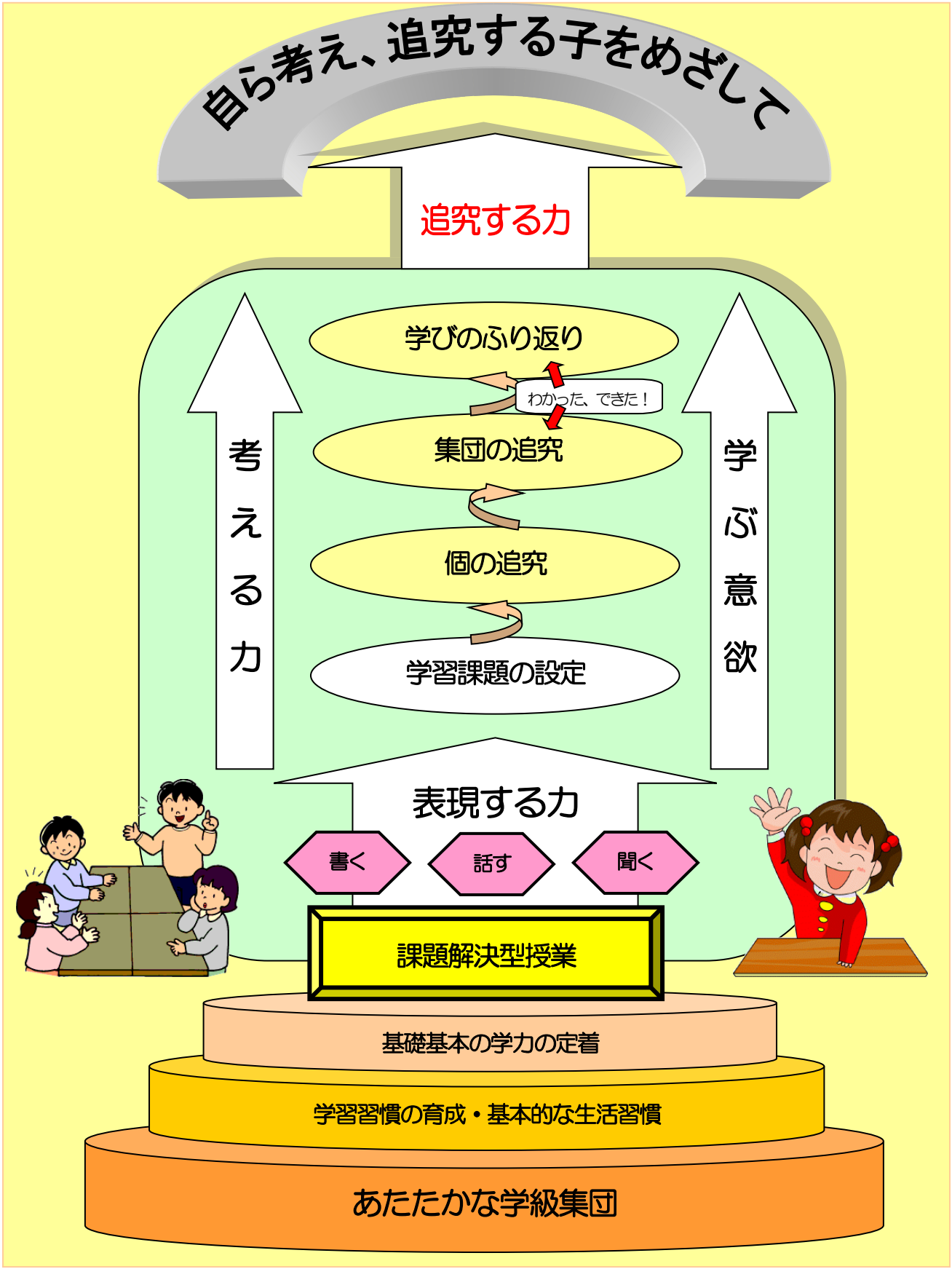


（3）「わかった、できた」を実感するための場の設定

・ねらいに合わせて、どんな力をどのように評価するのかを授業者が明確にしておく。
（中間評価、深めの発問等）
・学んだことを個で活用する場の設定（問題を解く、まとめる、振り返る）

ねらいにせまるために、どんな力をどのように評価するのかを考えて、実践する。学習課題について個で考えをもち、それを全体で交流・解決し、その学びを活用して個で解決する場を設けることで、児童は「わかった、できた」を実感し、教師は、一人一人の児童が「わかったか、できたか」を評価することができると考える。そのためには、タイムマネジメントにも留意して実践していく。

5．研究構想図


自ら考え、追究する子をめざして
追究する力
学びのふり返り
わかった、できた！
集団の追究
個の追究
学習課題の設定
考える力
学ぶ意欲
表現する力
書く
話す
聞く
課題解決型授業
基礎基本の学力の定着
学習習慣の育成・基本的な生活習慣
あたたかな学級集団

課題解決型授業

児 童

教 師

付けたい力を明確にする

課 題 の 設 定

・あれ？不思議だな。
・なぜだろう？
・考えてみたい、やってみたい。
・どのようにしたらいいかな。
・何かきまりがあるのでは？
・〇〇ができるように
　取り組んでいこう。

重点（１）問題意識が高まる課題づくり

・単元のゴールを見通した課題づくりと
　効果的な言語活動の設定
・根拠や筋道を明確に表現できる課題づくり

個 の 追 究

・自分の力で考えてみよう。
・できないところを
　できるようにしたい。
・前に学んだことを使ったら
　解決できないかな。
・理由をはっきりさせよう。
・他のやり方でやってみよう。

重点（２）根拠をもとに筋道を立てて考えを表現させる指導の工夫

・考えを表出するための書き方を獲得させる
　（ノート指導・ワークシートの工夫
　教科に応じた表現方法の指導 など）
・考えを伝えるための基本的な話し方を
　獲得させる
・思考を深め、ねらいにせまるための発問
・どんな力をつけたいのかを明確にした
　中間評価

自分の考えをわかりやすく伝えよう
これまでに学んだ学習内容や
伝え方を使って表現しよう

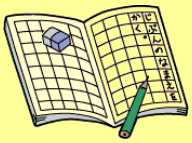
集 団 の 追 究

既習事項・アイテムを
活用させる

・みんなの考えを聞きたい。
・自分の考えと同じだ。
・〇〇という点では、
　少しちがうところがあるぞ。
・どんなことを言いたかったのか
　質問してみたい。
・なるほど、そんな考えも
　できるのか。

学びのふりかえり

・課題に対する答えが
　はっきりしたぞ。
・〇〇さんの考え方は、
　とてもわかりやすかった。
・学習用語を使って、根拠を
　はっきりさせてまとめられた。
・学んだことをつかったら
　わかった、できたよ。
・次はこれを考えてみたい。



重点（３）「わかった、できた」を実感させるための手立て

・学んだことを活用する場を設定する
　適用問題に取り組む
　学習用語をつかって自分の言葉でまとめる
　自分の変容を振り返る　等